

## 特集

人形たちとつくる  
コミュニティスポット

「ほっこり」始まりました

制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL:050-0359-0444 長野県飯田市中町1-2 TEL:050-3583-3594 FAX:050-0359-0444 E-mail: ita-puppet@misjams.or.jp

### 掲示板 いいた人形劇センター からのお知らせ

クリスマスは

ましゅ&Keiと  
楽しく過ごそう

チケット発売  
予約受付開始  
11月6日!

ましゅ&Keiがゲストとともに繰り広げるスペシャル企画。ゲストは抱腹絶倒のパントマイマー・京本千恵美さん!



#### オトナのためのクリスマスパーティー~!

12月5日(土) 19:00開演  
[場所] 川本喜八郎人形美術館 映像ホール  
[料金] 1,800円 定員/35人

#### 森のぼかぼかクリスマス

12月6日(日) 午前の部10:00~  
午後の部13:00~  
クリスマスリースづくりと、ましゅ&Keiのクリスマス会の両方が楽しめます。  
[場所] かざこし子どもの森公園  
[料金] 1人券1,000円、おやこ券1,500円  
かぞく券2,000円  
ましゅ&Keiのクリスマス会のみ800円  
[定員] 各回30組、ましゅ&Keiのクリスマス会のみは各回20人

- いずれも事前にご予約または、チケットをお求めください
- 問合せ: いいた人形劇センター ☎050-3583-3594

Dogushi

## 並木 さんぽ

飯田市内の小中学校で行われている人形劇の取り組み。本号で紹介した鼎中学校のように新型コロナの影響で臨時休校だった間は活動が休止。学校生活が再開してからは部活動や授業で行われていますが、「いいた人形劇フェスタ」「伊那谷文化芸術祭」が中止となり発表の場が減っています。地域に取り組んでいる子どもたちがいましたら、ぜひ地域のみなさんで発表の場をつくっていただけたらと思います。

次号は2021年1月発行予定です。(帆)

表紙画: 井原千代子

## View of IIDA

「人形劇のまち飯田」のシンボルとして、約30年もの間市民に親しまれてきた人形とけい塔。2018年に新しく作り替えられましたが、このほど初代とけい塔のからくり人形4体が、飯田市川本喜八郎人形美術館入口の壁面にお目見えしました。



## 第11回 AVIAMA 人形劇でつながる世界の都市

### サグネ市 (カナダ)

ケベック州中央部に位置する人口14万人ほどの都市で、街を流れるサグネ川が名前の由来です。

サグネ市の特徴は、その文化的な豊かさです。街には8つの劇場のほか、ダンスや音楽の学校があります。また交響楽団が活動し、国際短編映画祭も開催されるなど、芸術家や文化芸術の関係者に対して広く開かれています。

劇場を中心として人形劇にも強い関心を持っており、約30年の歴史がある「FIAMS」と呼ばれる人形劇の国際フェスティバルが2年に1回開催されます。屋内、野外での人形劇公演のほか、専門的なワークショップや会議など多彩なプログラムが提供されています。2021年はサグネ市でAVIAMA総会が開催される予定です。



人形劇の国際フェスティバル「FIAMS」の野外公演の様子

## 人形たちとつくる コミュニティスポット「ほっこり」

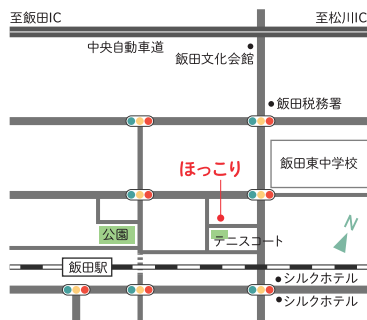
**開所時間** 毎週火曜 14:00～17:00(11/3は休み)  
第1・第3木曜 15:00～18:00  
第2・第4土曜 14:00～17:00  
※11月から開所日を変更します

**参加費** 無料。時間内は自由に入退室できます

**問合せ** ☎050-3583-3594  
NPO法人いいだ人形劇センター  
担当:木田  
iida-puppet-kida@mis.janis.or.jp

**場所** 飯田市高羽町2-5-1  
(高羽町テニスコート向かい側)

※「ほっこり」の斜め向かいに駐車スペースができました。  
車をご利用の方はご連絡ください。  
(高羽町テニスコート出入口の向かい側)



### 「ほっこり」ではどんなことができるの？

自分の得意なことを生かせます。

室内に用意された道具や材料をつかって絵を描いたり、裁縫をしたり、工作をしたり、人形で演じてみたり…

ほかにも

- 人形キットで人形がつくれます
- 絵本や紙芝居を見る(読む)ことができます
- ジグソーパズルができます

※スタッフがみなさんのお手伝いをします。  
必要な時に声をかけてください。

人と一緒に楽しい時間を過ごせればと思います。楽しさが周りにどんどん広がって、もやもやした心がちよつと軽くなればいいなあと思っています。

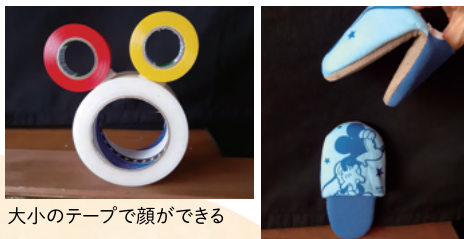
コロナによって、今まで当たり前になっていたことができなくなっています。これからどうすればいいんだろうという不安はまだ続きます。でも、人形劇の主人公たちはいつも困難に立ち向かっていく姿をみなさんの前で見せてくれます。夏のいい大人人形劇フェスタや当センターの人形劇定期公演に行ってみると、人形たちがどうやって克服して

いくかを楽しみながらたくさん知ることが出来ます。そして楽しんでる顔も、なぜか作ったり、演じたりしている人に似てくるという、人形劇ならではの不思議で面白い魅力もあります。人形のことを知れば知るほど、さらに新しい発見に出会えるでしょう。

ぜひ一度「ほっこり」に遊びに来てください。



自分だけのオリジナル人形が作れる



大小のテープで顔ができる

子ども用のスリッパが口に変身



人形づくりワークショップの集合写真(写真撮影時のみ、一時的にマスクを外しています)

9月29日(火)からほっこりがスタートしました。プレイイベントとして9月20日(日)と27日(日)に、人形づくりワークショップを開催し、10組の親子に参加していただきました。コロナ禍でなんとなく思いっきり楽しめない状況が続いていますが、人形を作るという共通の目標によって、いつも以上に家族の気持ちがひとつになって楽しんでる光景が見られました。

初めてのことは、楽しみだけでも不安に感じることがあります。今回の居場所づくり

## 特集 人形たちとつくる コミュニティスポット 「ほっこり」 始まりました

ほっこりは、人形劇を通して世代を超えていろいろな人たちが気軽に交流できる居場所です。心がとても繊細な子どもや若者、子育てや仕事をリタイアした高齢者の方々、育児に奮闘している若い世代、そしてアマチュア人形劇団などに利用していただきたいと思っています。

NPO法人いいだ人形劇センター  
事務局長 木田敬貴

は、私たちスタッフにとって楽しみでもあり、不安でもありましたが、とにかく始めてみようということでスタートしました。最初の一步は誰だつて、大人の私たちだって勇気がいります。だから同じ気持ちをもっている仲間を探して一緒にその一步を踏み出しました。ここに参加しようかなと思ってくれる人たちもきっと最初は勇気を出して来てくれると思います。私たちはそんな気持ちで大切にしています。私たちは人形づくりワークショップの時のように、みなさ

# 一年の中心が飯田にあります。

● 人形劇団きやべつ村 井腰 好一



初めて参加したのは1987年、「人形劇カーニバル飯田」と言われていた頃でした。公演をするようになってからは、金曜の夜、残業を切り上げ、車に人形を満載して夜中の中山道を6時間。迷いながら車を飛ばし(当時、カーナビどころか、携帯もありませんでした)、飯田に着いて冷房の効く公民館で仮眠をとった後、炎天下の中、一つでも多くの人形劇を見ようと走り回り、食事はおいなんよサロンのおやき。パレードで

## 第20回 飯田へ通ず すべての道は

次号は「ゆうすけ座」の阪上ゆうすけさんです

40年という長い時間、親から子へ世代を超えて培われた観客としてのエチケットと感性、そのクオリティの高さ。まさに、これは、行政と市民、劇人が一体となった文化の継続に対する恵みでしょう。他の地方の人間としては羨ましい限りです。



人形を持って中央通りを練り歩く「わいわいパレード」にて

### Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑨

### 折口学が読み解く韓国芸能 まれびとの往還

著者は飯田出身で、民俗学者折口信夫の「折口学」研究者。

韓国高麗大学提出博士論文を基にした、「折口の芸能学の理論を通して韓国の芸能をめぐる民俗現象を考察し、韓国の民俗に新しい解釈を加える」というもの。第4章「まれびと」では傀儡や男寺党など、第5章「よりしろ」で「山車機関人形」を取上げ、分量は少ないといえど韓国芸能における人形の存在が見える。韓国では民俗人形劇の存在は濃くはないが、「傀儡」など日本の古い人形劇への影響もあり、案外知られていない韓国民俗芸能は本来身近なのだといえ、新たな視座からの折口芸能学「まれびと」論は興味深い。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



伊藤好英 著 慶應義塾大学出版会 (2006年)

# 突撃! 人形劇の Part 25 ゲンバ



学生向けの人形劇講座ユースクラブに参加する飯田市立鼎中学校人形劇部「のん」。臨時休校が明け、7月から9月までの3カ月、9月末開催の同校文化祭での発表に向けて夏休み返上でオリジナルの作品づくりに熱中した“ゲンバ”へ直行しました!

オリジナル作品『約束のアイドル』。主人公の2人は幼馴染み。引っ越しのため5歳の時に別れてから10年後、中学生になった2人が再会。当時、約束したことを思い出して…

中学校の臨時休校が明け、学校生活が再開した「のん」のメンバー6人(2年生4人・1年生2人)を待ち受けていたのが「9月の文化祭で上演」という課題。「上演するお話のあらすじは春ごろからまとめていたけれど、台本というものには程遠くて…。登場人物の設定や話の中で起こる事件、それを取り越えるために何が必要か。意見を出し合いながら何度も書き直しました」と部長で台本担当の元島はるかさん。人形のキャラクターや衣装のデザインは矢澤菜留さんが担当し、人形・衣装づくりのかじ取り役は山下創大さんと高田采冬さん。そして一年生の森智貴さんと大前秋桜さんは先輩から指示を受けて一生懸命作業を進めます。

## 夏休み返上で作品づくり

劇中で流れる音楽や効果音の編集にも挑戦し、人形ができて、稽古に入れるようになったのが9月初め。作品の要となるダンスシーンや主人公の気持ちの表現など、最初はぎこちなかった動きが少しずつまとまってきました。文化祭直前の稽古では「ようやく芝居をつくる。まだまだ稽古が必要だが、短い期間でよく頑張った。思いっきり演じて」と主任講師・人形芝居燕屋くすのき燕さんがエールを送りました。



メンバーの頑張りを見て指導に熱が入る、主任講師・人形芝居燕屋くすのき燕さん(写真左)



人形制作の講師・吉澤亜由美さんが試作した人形と、自分たちで描いたデザイン画をもとにダンスが踊れるよう関節が動く人形をつくりました



制服のスカートは手間を惜しまず“車ひだ”に仕上げます



ラストシーンで使用する舞台幕にクローバーの葉をスタンプで描きます



シアター奇望堂「起きろ!!」ある日の朝、サトシ少年の部屋でいったい?!

## イベントレポート Event report

7  
ぶり再開

### 人形劇定期公演

今年3月から中止していた人形劇定期公演を9月に再開しました。会場は換気を徹底し、座席数を半分に減らして密を避け、ご来場の方にはマスク着用、検温・手指の消毒にご協力いただきました。上演は飯田市在住でひとり芝居の3劇団が行い、舞台上も密にならないよう企画。ご来場いただいた方から「コロナ対策がしっかりしてあり安心して観ることができた」「久しぶりの人形劇とても楽しかった」という声が寄せられました。



代田智之「なかよし」ライタ君とニャンタ君、今日は何して遊ぶのかな



なががた座「サンパショー」3分30秒の妙技?!に会場が騒然

### これからの人形劇定期公演

- 11/14(土) 10:30開演  
ばべと・どらら ほか
- 12/13(日) 10:30開演  
飯田女子高等学校人形劇クラブ  
人形劇団「寺小屋」
- 1/24(日) 10:30開演  
出演劇団未定
- 2/21(日) 10:30開演  
ころぼっくる、久保田稔樹
- 3/21(日) 10:30開演  
東野人形劇あかね、ふたご座

※いずれも会場は飯田人形劇場、料金200円

色  
とり  
ど  
り

### ダンボールししまい ワークショップ

わたちゃんこと獅子を舞う男・後藤渉さんを講師に毎年秋に開催している「わたちゃんのダンボールししまいワークショップ」。これまでは毎回40人以上の子どもたちが参加していましたが、今年は10家族に限定して9月・10月の2回に分けて獅子頭づくりを行いました。ダンボールでできた獅子頭のキットが配られると子どもたちは早く絵具で色をつけたくて仕方がない様子。今回は特別に獅子頭の色を「赤」「黄」「黒」から選んで塗れるとあって、色とりどりの獅子が完成しました。

さらに、10月半ばには参加した子どもたちが集まり、わたちゃんと一緒に自分だけのオリジナルの獅子頭を持って舞いを披露。なんともかわいらしい動きに見守るご家族の方々から拍手が沸き起こりました。



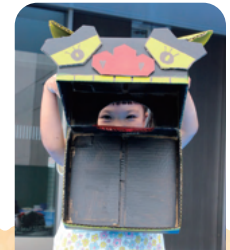
目や鼻、歯はマジックで自由に描きます



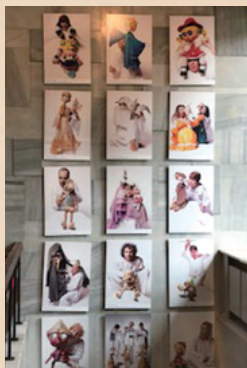
黄で塗った獅子頭もなかなかの出来栄え



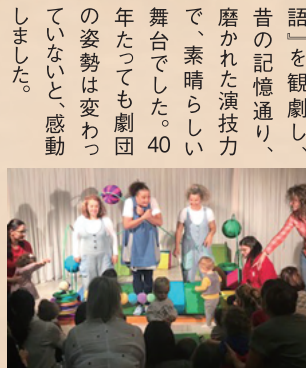
一つ一つ歯を描きます



鼻耳も好みの色を選んで仕上げた黒の獅子頭



階段踊り場の写真展示



ロビーでの幼児向け公演

私が最初にこの劇団の作品を見たのは、40年近く前です。遣い手も見える上からの操り人形で、冴えない中年の役人と恐竜の赤ちゃんの心温まる作品でした。早速日本に招待し、公演してもらいました。そして一昨年、人形劇団ブークさんと共演作品「カモメに飛ぶことを教えたドラ猫の物語」を観劇し、昔の記憶通り、磨かれた演技力で、素晴らしい舞台でした。40年たっても劇団の姿勢は変わっていません。感動しました。

## 日本ウニマ通信 世界みて ある記 11

### ソフィア中央人形劇場

NPO法人人形劇ファクトリー 松澤 文子

ブルガリアの首都、ソフィアの街の真ん中に大小2つの人形劇場を持つ、1946年に創立されたブルガリアを代表する人形劇団です。大劇場は260席の大ホールと、ロビーなどを使った小さな公演も行われています。昨年、私たちが訪ねたときは、ロビーで幼児のための人形劇をやっていました。小劇場は128席のホールを持っています。運営費は100%ソフィア市の助成金ということです。日本とのあまりの違いに卒倒しそうです。



劇団員は80人。その構成が驚きです。役者27人、技術スタッフ17